

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)		-	-	-
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・客数が増加しており、前年割れが止まっている。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・来年10月から消費税の引上げがあるため、その影響で高額商品が売れており景気が良い。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・12月は例年売上が良いが、今年は特に快晴の日が多く、買物日和が多かったため、来客数が増加し、単価も上昇してきた。地方にも少しは好景気の循環が回ってきたようだ。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・来客数が増え、それに伴い部門問わず販売量も増えている。
		乗用車販売業（営業担当）	来客数の動き	・来客数は前月に比べ120%増加しており、販売量も少しずつ増えてきている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・12月の計画目標は100%達成できた。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・高級乗用車の新型の販売が好調である。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・13府県ふっこう周遊割等を含め、客の動きがここにきて活発化している。特に年末年始の旅行が上向きである。
		タクシー運転手	お客様の様子	・前月よりは良いが、売上、客数共に12月の前年比では10%～12%少なくなっている。忘年会がなくなった、回数が減ったという客の声が多い。
		通信会社（技術）	販売量の動き	・直近数か月間の販売量の動きが右肩上がり続きである。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・年末という事もあるが、新規客が少し増えている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・2年間続いた博覧会もフィナーレが近くなり、11月下旬から実施しているライトアップによる集客力も上昇している。夜を中心に、飲食店にもぎわっており、その波及効果として夕方から商店街にもぎわっている。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	単価の動き	・外商の届け先の件数は少し増加しているが、単価が下落しているため、手間の割に外商の売上は増加していない。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・12月の忘年会シーズンでも飲酒する客が年々減っているようで、余り販売数量が伸びなかった。客単価も上らず、安い店へ流れる傾向にある。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・高級時計は好調である。クリスマス商戦で、特定のブランドに動きがあったが、大きな流れにはならなかった。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・12月の動きは催事（クリスマス・年末）でほぼ決まるが、予約状況は例年並みに推移した。それ以外の来店客は小売各社の間で取り合いが継続している。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・客数の前年割れが数か月続いているが、客単価でカバーしており、かろうじて前年並みの売上をキープできている。
		衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・前年に対し売上高が5%程度減少して推移している。12月中旬に気温が上がったこともあり、コートやダウンの販売が鈍り客単価が低迷したことが大きく響いている。年末は気温が下がったが、セールに備えた買い控えもあり、売上は伸び悩んだ。
		家電量販店（副店長）	来客数の動き	・暖冬の影響で季節商材の販売が低迷しているが、BSの4K放送開始によりテレビは好調に推移している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	お客様の様子	・寒さとともにコート等がようやく動き出したが、セール待ちの客も多くいるようだ。

	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・温泉街全体では、耐震工事の改築などで客数は全体的に減っているが、当社は例年並みで、販売量も落ちていない。宿泊が少し減少しているが、宴会等が増えており、売上は前年並みである。	
	都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・単価が非常に悪い状況が続いている。これが良くなると、なかなか景気が上向くということはないのではないかと。	
	通信会社（支店長）	販売量の動き	・特段の変化は見られない。	
	競輪競馬（マネージャー）	お客様の様子	・1人当たりの利用額はほとんど変わりなく低調に推移しているとみられ、売上高、利用者数いずれも例年並みである。	
	商店街（事務局長）	販売量の動き	・12月上旬に気温が下がりアパレルを中心とした季節商材の動きに期待したが、中旬以降、寒さが緩み伸び悩んだ。後半は株価の下落で富裕層を中心に財布のひもが更に固くなった。インバウンドによって、人通りが減っていない事だけが幸いである。	
	一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・年末のにぎわいが例年より静かである。来客数は余り変化がないが、庶民的な商品が売れ、高級品の売行きが悪い。	
	百貨店（営業統括担当）	来客数の動き	・来客数の減少が売上に影響している。クリスマスや年末などの催事も来客数は前年比マイナスで推移している。また、冬物重衣料などの防寒アイテムは苦戦が継続している。	
	スーパー（財務担当）	販売量の動き	・客はより安い価格で買えるところへ買い回りをしている。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車受注の状況は前年並みで推移している。	
	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・3か月前に比べて販売量が20%減少した。	
	×	商店街（代表者）	それ以外	・地方の景況は引き続き良くない。米中貿易戦争など内外に不安定な要素が多く、数年ぶりに年末株価が年初比較で大きく下落し、消費意欲に唯一期待を掛けた株式市場から資金がどんどん流出している。可処分所得にとって極めて悪い影響を与えるだろう。
	×	スーパー（店長）	来客数の動き	・人口減の推移のままに、来客数も減っていると強く感じる。
	×	コンビニ（店長）	来客数の動き	・客が来ず、商品が売れない。客数、売上共に減少が続いており当地区は異常な状況である。同業者との間でも意見交換し対策を練っている。特にこのクリスマス商戦は、大幅な減少となった。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・11月一杯で、ほぼお遍路の仕事が終わり、12月に入り、忘年会シーズンだが前年ほど良くない。お遍路と比べ、街中では売上が上がらない。
企業 動向 関連 (四国)		-	-	-
		木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量が伸びている。来月の見込みもアップで計画できており、消費税の引上げの効果が出ている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・再生可能エネルギー事業は好調であるが、再生可能エネルギーの大型プラント製造は、契約価格が下落し非常に苦戦をしている。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先への融資が増加傾向にある。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新製品が好調で受注は増えているが、従来商品は前年比で減少している。市場は絶えず新陳代謝があり、従来の取組だけでは厳しい状況にある。市場はオーバーストア気味で、値段を下げたり、目新しい商品をそろえる等、絶えず新しい取組をしていない小売店は消費者から見放され衰退していき、景気そのものは良くないと思う。
		鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量共に変化はない。
		電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・3か月前の販売量と比べ、商品ごとには増加や減少がみられるものの、総量としてはおおむね同程度で推移している。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月、受注が減りつつあるので、今後が心配である。	

		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今夏の災害復旧関連業務が継続しており、例年よりも業界の景気は良い状態が継続している。
		輸送業（経営者）	それ以外	・株価の大幅下落が気になる。株価の下落が消費者マインドに与える影響は大きい。
		輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・荷動きが激しい年末繁忙期は、ここ数年、ドライバー不足や燃料油価格の高騰を背景としたトラック便の不足が目立ち、物流の停滞を招く状態にあったが、今年は臨時便を出して対応しなければならない様な激しい荷動きはなかった。荷主に対し集中出荷から分散出荷へ切替え協力の要請を行っている部分を加味したとしても、取扱物量が例年より減少している。
		公認会計士	取引先の様子	・今月の各関与先企業の決算、試算表等を分析すると、景気が良くなっている企業と、悪くなっている企業と二極化されているようで、必ずしも景気が良くなっているとは判断しがたい。
		通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・テレビCMスポンサーの全国的なキャンペーンの縮小や中止が影響している。
	×	農林水産業（職員）	取引先の様子	・卸売市場の取引は、11月の暖秋に伴う野菜の入荷増から荷動きは鈍化し、12月もその傾向が続き、大型野菜や茎葉菜を中心に価格が低迷した。果菜類は天候要因により、中旬から入荷が減り、下旬にかけ価格は回復し、品種によっては高値も見られた。しかし、量販店における販売方法はカット商品等の少量・小口販売が中心となっており、大量の販売が難しい環境が災いし、仲卸など中間業者にも滞貨がみられ、長期にわたり安値が続いた。
雇用 関連 (四国)		-	-	-
		-	-	-
		人材派遣会社（営業）	雇用形態の様子	・年末時期のお歳暮は、前年度及び今年の夏のお中元対比で件数が増加傾向にあり、景気の回復を感じる。一方、現場では人材不足に悩み、働き方改革の実践計画とのかい離がみられる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・サービス業は競争がますます激しくなり、業務に対しての見返りが少なくなっている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・人手不足は相変わらずだが、賃金体系の変更には至っていない。
		民間職業紹介機関（所長）	それ以外	・今年の年末は、デパート、量販店などのサービス業への来店客数が減少しているようだ。株安などの景気低迷感が消費者にあるようで、例年になく、買い控えをしている様子である。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・求人数が減っており、製造業の依頼が少なくなっている。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・派遣の依頼が前年より減っている。
		求人情報誌（営業）	求人数の動き	・求人数が増えてきており、内容を見ても、現場のワーカーに加えて、コア人材、幹部候補の不足が目立っている。
		職業安定所（求人開発）	周辺企業の様子	・11月の有効求人倍率は1.64倍で、3か月前と比べて0.10ポイント増加しているが、最近、企業の統廃合や合併の情報が増加してきており、景気は悪化傾向にある。
	×	-	-	-